

# いわいずみ 議会だより Iwaizumi

ふるさと岩泉の  
**大家族**④  
(関連記事 18頁)

2016  
2.1  
No.

**174**

発行 岩手県岩泉町議会



**済生会岩泉病院へ1億円の補助金…2**

遊休施設の活用策などを問う（6議員が一般質問）…6

議員と語る会（地区別）開催報告…14

委員会レポート…17





第4水曜日診療（済生会岩泉病院附属有芸診療所）

済生会岩泉病院は、附属有芸診療所も運営しています。

また、釜津田、小本、安家、大川にある診療所の運営を受託しています。



隔週火曜日診療（大川診療所）



隔週火曜日診療（釜津田診療所）



第2水曜日と第4木曜日診療（小本診療所）



隔週火曜日診療（安家診療所）

# 1億円の補助金

## 12月定例会のあらまし

12月定例会は12月8日から11日までの4日間にわたり開かれました。

一般質問では6人の議員が登壇し、結婚、子育て、定住化、産直施設、町有林、遊休施設の活用など町政全般にわたり論戦を展開しました。

また、町長から提出された1件の報告と26件の議案などを審議し、すべて原案のとおり可決、同意、答申しました。

条例の制定や改正、補正予算、町道認定に関する議案20件については、特別委員会（畠山直人委員長）を設けて集中審査。その結果、すべて原案のとおり可決しました。請願は、3件提出され、担当常任委員会へ審査を付託。本会議において、2件が反対多数で不採択、1件が全会一致で採択となりました。

### 本

町における唯一の公的有床病院である社会福祉法人恩賜財団岩手県済生会岩泉病院（以下、済生会岩泉病院）に補助金1億円の予算を可決しました。

一般診療、救急医療、在宅訪問診療のほか、各種予防接種、児童生徒や成人の健診、町立診療所の受託まで地域医療において大きな役割を担っている済生会岩

泉病院が、医師確保対策事業を行うためのものです。今年度の補助金は、合計で1億2500万円になります。

**問** この補助事業は来年度以降も継続して行うのか。

**答** 済生会岩泉病院と協議し、経営状況等を見て、継続するかどうかについては判断していく。



補助金増額により、さらなる医療の充実が期待されます（済生会岩泉病院）

# 済生会岩泉病院に

**問** 今回の1億円の使い道は、医師確保対策に限定するの  
か。

また、議会で要望している小児科医等の確保について考えを聞く。

**答** 医師確保対策に使われるものと考えている。

済生会岩泉病院からは「常勤医3人体制を堅持しつつ、4人体制を目指していく。また、町民の要望が多い小児科、耳鼻科の診療応援の確保をはかる。」と聞いている。  
町も一緒になって取り組んでいく。

**問** 済生会岩泉病院への苦情がある  
と聞くが、どのように  
捉えているか。

**答** 役場に寄せられた苦情は、そのまま済生会岩泉病院へ情報提供している。また、病院内に苦情受付箱を設置し、経営会議で協議していると聞いている。  
町、病院、町民が連携することにより、それぞれが信頼関係を高め、地域医療が守られるよう環境を構築していく。

**問** 済生会岩泉病院が行う医師確保と併せて、本町の医師奨学生制度を活用し、医師確保をはかるべきではないか。

**答** 現在、医師奨学生は2人いる。義務履行を果たすよう、協議していき

## 補正予算の主な内容

- ◇ 共進会場整備事業 1億3354万円  
旧下閉伊北部家畜市場は、各種共進会（ホルスタイン種・黒毛和種・日本短角種）やイベント会場等として使用してきましたが、既存施設では手狭になったので、共進会やイベント等多目的に使用できる施設として整備を行います。
- ◇ 農業雇用創出インストラクター設置委託 179万円  
遊休農地の有効活用をはかりながら就農希望者を支援するために、インストラクター2人の育成を委託します。

## 常任委員の選任

**岩**

泉町議会議員の補欠選挙で当選した議員が、常任委員に選任されました。

「総務常任委員」

小松ひとみ議員

# 動き出す

# 小本複合施設



12月23日に竣工式しゅんこうが行われた小本津波防災センター

条例補正予算等審査特別委員会（畠山直人委員長）では、  
 条例制定や補正予算案などを審査しました。  
 審査の結果、付託された20議案すべてを可決すべきと決定。  
 その後の本会議で、全会一致で原案のとおり可決しました。  
 委員会の審査の中からいくつかの質疑を要約してお伝えします。

- 問** 災害時の非常電源は。
- 答** 3階に自家発電機室を設けた。非常時にはディーゼル発電機で72時間対応できる機能を備えている。
- 問** 災害時に、ほかの場所では携帯電話が通じなくても、この施設では通話できるか。
- 答** 災害時の携帯電話は、通信事業者において回線がパンクしないように通話制限をしている。それは、この施設も同じである。災害時は、特設公衆電話で自分から安否を伝えることができるようにする。また、衛星携帯電話を備える。
- 問** 災害時の非常電源（※）は、災害時でも使える。文字情報で安否を伝えることができる。
- 答** なお、ワイファイ機能（※）は、災害時でも使える。文字情報で安否を伝えることができる。
- 問** 小本津波防災センター内に役場の小本支所が入る。仮設支所は、どのようになるのか。
- 答** 1月末で解体する予定である。
- 問** 新しくなった診療所は、診療回数が増えるのか。
- 答** 仮設診療所と同じく月2回の診療となる。
- 問** 観光センターの運営は。
- 答** また、運営者を決める時の条件を示せ。
- 答** 岩手県北自動車（株）が運営する予定である。
- 問** 観光センターでは、物産の販売、観光案内を行うのか。
- 答** 各種切符（三陸鉄道、新幹線、航空券）の取り扱いが充実していることを最優先とした。
- 問** 観光センターでは、物産の販売、観光案内を行うのか。
- 答** 岩手県北自動車（株）では、東北自動車道の一部のサービスエリアを運営しているの  
 で、物産の販売や観光案内のノウハウを持ち込んでほしい、道の駅機能を持たせた施設としたい。

(※) 無線でパソコンなどをインターネットにつなげる技術

- 鉄骨鉄筋コンクリート造り3階建て
- 総事業費 13億1437万円
- 施設の主な概要
  - 1階…役場小本支所、観光センター
  - 2階…小本診療所、三陸鉄道岩泉小本駅ホームへの連絡通路
  - 3階…一次避難所となる集会室

◎自家発電設備が備えられ、各階に防災倉庫が配置されています。





各地にある滝を生かして滞在型の観光コースを（年々大滝）

## 観光 各地区の滝巡り観光を地域振興協議会でも検討

**問** 安家には多くの滝がある。産直施設の開業日に滝巡りを実施してはどうか。

また、各地区の滝を調査し、観光客の滞在時間を増やすようなコースを作ってはどうか。

**答** 安家川に四十八滝といわれる滝がある。観光に結び付けられないか、安家地域振興協議会でも検討している。

担当課でも、ブログ等で紹介していきたい。

**問** 岩泉30景の見直しの検討は、進んでいるのか。

**答** 平成27年の岩泉町観光協会の総会で岩泉30景の見直しについて話し合いがされた。見直しが進んだ段階で、支援を検討したい。

## 福祉灯油 対象世帯を増やす考えは社会的弱者に限定した

**問** 福祉灯油助成事業では、1世帯の助成額を1万円として、800世帯分を積算している。助成額を減らし、世帯数を増やす検討はしたのか。

福祉灯油助成事業では、1世帯の助成額を1万円として、800世帯分を積算している。助成額を減らし、世帯数を増やす検討はしたのか。

**答** 助成対象は、県の要綱に準じている。

町民税非課税世帯のうち、高齢者のみの世帯、重度心身障がい者のいる世帯、ひとり親世帯に限定した。

## マイナンバー 未配達分の取り扱いは来年度初めに廃棄する

**問** 配達できなかったマイナンバーの通知書の数は。

**答** 町内の郵便局は11月30日に配達事務を終わり、未配達分312通を町で保管している。

役場各支所で交付する体制を整えて、ぴーちゃんねつとで町民に周知したところである。

**問** 最終的に受け取りにできなかった場合はどうなるのか。

**答** 3カ月をめどに保管するようにとの国からの通知がある。年度末まで保管して、受け取りにできなかった場合は、国の通知どおり廃棄する。

## 国土調査 筆界未定地の再調査は改めて調査はしない

**問** 国土調査の筆界未定地について、町で再調査に踏み切る考えはないか。

**答** 国土調査は、平成19年で全地区終わっている。町が、改めて筆界未定地の調査をする考えはない。

**問** 安家地区は40%を超える筆界未定率（面積）となった。筆界を確定するために、町独自に手を差し伸べるべきと思うが。

**答** 国土調査完了時の筆界未定率（面積）

地区別筆界未定一覧（平成19年12月31日現在）

地区	筆数	筆率 (%)	面積 (ヘクタール)	面積率 (%)
岩泉	876	6.03	1165.11	7.43
小川	331	3.28	277.93	1.82
大川	386	5.03	694.55	4.27
小本	731	8.72	843.37	18.96
安家	839	17.27	3382.85	41.27
有芸	102	2.39	217.01	2.78
計	3265	6.56	6580.82	9.73

は、9・73%だったが、現在9・41%に減っている。「筆界未定地については、町が処理するのではなく、関係者が処理するよう指導すること。」と国から通達が出ていることから、地権者間で解決していくことになる。

## 人権擁護委員 の推薦



やまうち よしひろ  
山内 義廣さん  
(大川・67歳)  
任期：3年(再任)

## 町固定資産評価審査 委員の選任に同意



まつうら のりお  
松浦 紀雄さん  
(小本・63歳)  
任期：3年(再任)

## 副議長に畠山議員 宮古地区広域行政組合議会

10月20日に開かれた宮古地区広域行政組合議会の定例会で、町議会選出の畠山直人議員(67)が、副議長に選任されました。

広域の組合議会は、宮古広域圏内の4市町村の議会選出議員13人で構成。衛生、消防など、広域で処理する事業の予算、決算などを審議するもので、市町村の議会と同様の性格を持っています。



畠山 直人議員

## 6人の議員が発言 ~質問内容~

結婚相談員の充実を  
病児・病後児保育の実施を

八重樫龍介 7p

子育て支援体制の充実を  
遊休公共施設の活用を

坂本 昇 8p

安家産直施設の支援策は  
安家地区に企業誘致を

合砂 丈司 9p

定住化対策を問う  
高齢者の収入確保を

三田地久志 10p

町有林を町づくりの財源に  
ぴーちゃんの商用利用は

野館 泰喜 11p

保育料に年少扶養控除を  
課税の境界層への支援策は

林崎竟次郎 12p

# 一般質問

一般質問とは、議員が町長などの執行機関に対し、事務の執行状況や将来の方針などについて、所信や疑問をただすこと、あるいは報告や説明を求めることを言います。また、議員が主義、主張を述べ提案し論戦します。  
結果として「現行の政策変更」や「新規政策を採用」させるなどの効果があります。  
内容を要約して登壇順(質問順)にお知らせします。  
なお、質疑全文を記録した会議録は、3月下旬ごろから町立図書館または役場各支所図書室で閲覧可能となる予定です。



八重樫 龍介 議員

# 結婚相談員の充実を

## さらなる増員に努める

伊達町長

**問** 自然な出会いが減少し、結婚が実現しにくい時代になっている中、結婚相談員の役割が重要になっている。

本町には、専門結婚相談員が1人、6地区に結婚相談員が8人配置されているが、地区によって1人または2人と体制に差が生じている。全ての地区で、きめ細かな支援や柔軟な対応ができるよう複数人の体制にするべきと思うが見解を問う。

また、活動報償費（1日6300円）は、活動日誌の提出後ではなく、ある程度の金額を前払いにし、活動しやすい状況にするべきではないか。

**町長** 結婚は町の人口減少対策に直結し、岩泉町の未来を築く根源である。

全地区において複数人の体制を整える必要性があり、地域ぐるみで結婚をサポートできる仕組みづくりに取り組む必要がある。

結婚相談員には、地域に密着した活動が期待される。きめ細かな支援を行うためには、

活動報償費の支給方法については、結婚相

### 病児・病後児保育の実施を

### 前向きに調査・研究をする

**問** 子どもが病気でこども園等を休ませなければならなくなった時に、本町には子どもを預ける施設がないので、親が仕事を休むことになる。

働きながら子どもを産み育てやすい環境が必要であることから、病児・病後児保育を早急に実施するべきと思うが考えを聞く。

**町長** 病児・病後児保育は、専用スペースを設置するとともに、看護師と保育士それぞれ1人以上を配置しなければならぬ。現在は、

その要件を充たすことが困難であるため、実施に至っていない。しかし、子育てニーズの多様化に伴い、病児・病後児保育のニ

ーズの拡大が予想されることから、関係機関と連携し、課題の解決に努めながら、実施に向けて前向きに調査・研究していく。

### そのほかの質問

▼岩泉町地域づくり支援員の活動について



結婚相談員の充実により成婚率が上がることが期待されます



**問** 小児科医や産婦人科医が本町に不在のため、不安を感じながら子育てをしている状況が見られる。医師確保が困難な実情であるので、助産師や保健師、看護師により、妊婦や子どもが救急の事態に対応できるシステムづくりや地域サポートの充実、見守り体制の確立をはかるべきである。

**町長** 妊産婦に対しては、通院費補助事業を実施し、ほぼ全員が利用している。また、今年度から本人の同意を得て、妊婦健診等の

データを医療機関と町が共有し、周産期医療情報ネットワーク事業（※）に取り組んでいる。助産師や保健師などの専門職と地域との連

携によるサポートのあり方については、調査・研究を進める。また、済生会岩泉病院との連携をさらに強化し医療の充実に努める。

## 坂本昇議員

# 子育て支援体制の充実を

## 医療機関と連携して強化

### 伊達町長

### 遊休公共施設の活用を

### 活性化の施設として推進

**問** 各地区に、学校統合や老朽化などにより利用されていない校舎や教員住宅等がある。住民福祉の向上や交流事業の拡大に活用するべきではないか。

**教育長** 補助事業により整備した施設の用途を変更するには制約があるが、国は施設の有

効活用のため、手続きの弾力化などに取り組んでいる。施設を有効活用するよう、各課横

断的に取り組む。

用を

### その他の質問

▼ベビーシッターの活

▼岩泉公民館跡地に公園を



子育てには専門の知識を持った保育士の指導が大きな支えです（保健センター）

（※）ハイリスク妊産婦の継続的な支援と緊急時における適切な医療受診が可能となる事業





合砂 丈司 議員

# 安家産直施設の 支援策は

## できる限りの支援をしていく

伊達町長

**問** 安家地区の産直施設は、完成が間近である。希望郷いわて国体の開催や大月峠の開通により、観光客の増加とともに活性化が期待される。施設の維持管理、運営等は、どのように支援していくのか。

**町長** 希望郷いわて国体の開催に併せて龍泉洞や三陸海岸にも全国から多くの人が訪れる。その受け入れの目玉となる安家産直施設は大いに注目を集めるものと期待している。

地域の皆さんとともに、安家地域にしかできないおもてなしの仕組みを作り上げ、活性化をはかっていきたい。

町の施設であるが、地元の団体が運営することに進めている。休憩所やトイレ、駐車場等の共有部分は、委託による維持管理を想定している。

平成28年春の営業開始に向けて、食堂と産直の準備が本格的に始まることから、町として、できる限りの支援をしていく。

### 安家地区に企業誘致を

### 雇用実態を踏まえ取り組む

**問** 安家地区の人たちは、他地区へ通勤している人が多い。冬期間は、積雪や凍結で事故が多いことから、近くで働きたいとの声もある。安家地区に企業の誘致が必要と思うがどうか。

**町長** 居住地の近くに雇用場を確保することは、地域にとって極めて重要である。一方、物流距離の状況などから、製造業等の企業誘

致は、かなり不利な状況にある。雇用実態も踏まえながら、企業誘致に最大限取り組んでいく。

また、それぞれの地域に根差した農林水産業を核とした6次産業化についても研究を進め、地場産業の拡大と新規事業の可能性を積極的に探る。

#### その他の質問

▼旧大平小中学校の利活用について



平成28年春のオープンが待たれる安家産直施設

**問** 定住化を推進するためには、農地山林付きの住宅の確保とIJUターンの受け入れ態勢の構築、情報発信が必要である。本町の取り組み状況を。また、今年度実施している空き家調査の進捗状況はどのようになっているのか。人口減少を抑えるためにも速やかな対策が必要である。

**町長** 空き家の概要調査は、半分程度を終えている。アンケートを実施しながら、空き家バンクの本格実施を目指す考えである。

空き家バンクに登録した建物を、町が一定期間借り上げて改修し、移住者等に貸し付ける制度を検討している。

IJUターンの受け入れ態勢については、受け入れる地域の各種団体と連携しながら進めていきたい。情報発信については、ホームページやSNS（※）を積極的に活用していく。

## 三田地久志議員

# 定住化対策を問う

## 空き家バンクを実施

### 高齢者の収入確保を

### 不転居の決意で取り組む

**問** 高齢者が安心して暮らすためには、ある程度の所得が必要である。収入が国民年金のみの場合は、行政の関わりが必要である。収入を確保するために、米や野菜、まきの販売を行ってはどうか。商品の収集と販売は、地域振興協議会または第三セクターで取り組めないか。

## 伊達町長

**町長** 高齢者の低所得対策は、町長就任当初から心を痛めていた課題でもある。

まきについては、商品化して町内外へ販売

することを協議している。さまざまな視点で知

恵を絞り、不転居の決意で大胆に取り組んでいく。



空き家を活用した早急な定住化対策が求められます

(※) インターネットを利用したコミュニティ型の会員制サービス





野館 泰喜 議員

# 町有林を町づくりの 財源に

## 森林価値の最大化をはかる

伊達町長

**問** 昨年度の9月議会で、町有林6000ヘクタールの計画伐採について質問したところ、更新伐の計画を追加して広葉樹の木材生産を行っていくとの答弁を受けた。実施状況と現在の計画を示せ。  
木材を毎年100ヘクタールずつ切っても60年かかる。これを計画的かつ継続的に実施できれば、林業復興の基礎になり、現在計画中の貯木場整備と林業の6次産業化に拍車がかかる。そして、その財源を活用した町づくりについて議論を始めるべきと思うがどうか。

**町長** 町有林は、約4000ヘクタールの面積で大川財産区有林と合わせると約6000ヘクタールとなる。このうち、生産可能な広葉樹林は1000ヘクタール弱と推定している。森林経営計画では、本年度約11ヘクタール、平成28年度までの計画期間中に約22ヘクタールを伐採する予定としている。

今後、木材の価値を高めるように努め、地域木材流通拠点の整備等により、地域ブランドの構築と林業の活性化に取り組む。

### ぴーちゃんの商用利用は 産直組合と活用策を検討

**問** 本年4月から全町で運用が始まっているぴーちゃんねつこの利用状況を聞く。

利用拡大と町民の利便性の観点から、商用利用に踏み込むべきではないか。まず、各産直施設と消費者を結びつけるシステムを構築できないか。新年度からの運用を期待するが、実現性について問う。

**町長** 4月からの情報配信数は、2100件で、1日あたり約8件となる。

商用利用については住民の福祉向上をはかる観点から、内部でも

情報交換をしている。

受注から配送手配までをぴーちゃんねつこのシステムに組み入れる

には数千円のコストがかかる。また、ランニングコストも高額にな

ると想定される。

よって、広告媒体としての活用を中心に、産直組合と情報交換をしながら最大限活用できるよう提案していく。

### そのほかの質問

▼CCRC（都会の高齢者が地方に移り住み、継続的なケア環境の下で、自立した社会生活を送ることが出来る地域共同体）の構想は



豊かな森林資源を生かした町づくりが望まれます

**問** 子ども・子育て支援制度では、新規利用者の保育料の算定において、市町村の判断で年少扶養控除をみなし適用できることになった。本町でも年少扶養控除をみなし適用するべきではないか。

**町長** 本町では、世帯第3子以降の保育料無料化を実施するとともに、保育料を国の基準の50パーセント程度に設定し、保護者の負担

軽減をはかっている。

継続入園している園

児の今年度の保育料は、昨年度とほぼ同額となっていることから、制度改正による影

響は少ないと判断している。

よって、本町において、年少扶養控除のみなし適用は、必要性がないものと考えている。

**林崎 竟次郎 議員**

## 保育料に年少扶養控除を

### 必要がないものと考える

#### 課税の境界層への支援策は

#### 基準に基づいた負担は必要

**問** 町民税が課税になれば、非課税世帯の支援策に該当しなくなり、手元に残る金額は非課税世帯より少なくなる場合がある。中学生までの医療費助成等、町民税が課税か非課税かによって世帯が受ける影響は大きい。町民税課税基準をわずかに上回る世帯への支援が必要と思うがどうか。

**伊達町長**

**町長** 収入が増え、町

民税が非課税から課税

となったため、その年

度は非課税世帯の支援

策に該当しなくなり、

収入の増額分より税金

等の負担額の方が大き

くなるという事例も考

えられる。

我が国の社会保障制

度は、相互に連帯して

支え合う仕組みになっ

ている。基準を下げた

としても、基準をわず

かに上回る世帯は常に

想定される。

このことから、一定

の基準に基づいた負担

は、必要不可欠である。



生活発表会で合唱する園児たち(いわいずみこども園)



# 皆さんのからの 請願・陳情

12月定例会に提出された請願は3件でした。  
担当の常任委員会に審査を付託し、本会議で次のとおり決まりました。

採択された請願書は、町長あてに送付しました。

## ■大穴地区への簡易水道設備の整備についての請願

▽請願者

見内川部落会会長

中村廣

▽紹介議員

菊地弘巳

← 採択

(全会一致)

## ■「安全保障関連法の廃止を求める意見書」提出を求める請願

▽請願者

みやこ九条の会会長

長門孝則

▽紹介議員

林崎竟次郎

← 不採択

(不採択に反対1人、賛成13人)

### 採択の討論

憲法に反する立法は  
廃止すべき

林崎竟次郎  
多くの国民や憲法学者等は、海外で戦争をすることを許すこの法案を憲法違反だと言っている。

憲法は、国家権力を制限する基礎法であるとともに最高法規である。憲法に反する立法をしてはいけない。本請願は、採択するべきである。

### 不採択の討論

戦争法とは断定  
できず

坂本昇  
報道等から違憲であるとの国民の声は承知している。

この請願においては、安全保障関連法を「戦争法」と表記しているが、国の安全保障に関する法律であることから「戦争法」とは断定できない。よって、不採択とするべきである。



## ■TPP交渉の情報公開とTPPからの撤退・調印中止を求める請願

▽請願者

農民運動岩手県連合会会長

久保田彰孝

▽紹介議員

林崎竟次郎

← 不採択

(不採択に反対2人、賛成12人)

### 採択の討論

国民の生活や営業に  
直結

林崎竟次郎  
環太平洋連携協定(TPP)の合意は、酪農家にとって、じわじわと首を絞めるように効いてくると聞く。

この請願は採択するべきである。

### 不採択の討論

国際合意の重大さを考慮

野館泰喜  
TPPの合意は、本町農業者へ多大な影響を与え、対応に苦慮している実情である。

しかし、国際間の約束をほごにしてまで撤退を強行することは、先進国日本がとるべきではない。よって、不採択とするべきである。

# 臨時会

平成27年第4回と第5回臨時会の主な内容をお知らせします。

提案された議案は、審査の結果、すべて全会一致で原案のとおり可決しました。

## 第4回(10月15日開催)

### 被災者補助金 6千万円を可決

この臨時会では、補正予算案1件と契約議案1件を審議し、2件

の報告を受けました。

■補正予算の主な内容  
▽被災者住宅復興(再建) 支援事業費補助金 6400万円

▽ふるさと納税謝礼 1650万円

## 第5回(11月17日開催)

### 球場整備に関する 議案を可決

この臨時会では、補正予算案1件と契約議案1件、承認1件を審議しました。

■岩泉球場環境整備工事(球場大規模改修) 1億1880万円



フリートークで意見を話す参加者



笑顔で意見交換



議員定数について参加者全員から意見を聞きました



生活に密着した意見も出されました



参加者の声に聞き入る議員

# 参加者全員の声を聞いた

# 議員と語る会

第6回議員と語る会は、各地域振興協議会の協力により11月15日から20日まで、昨年と会場を変えて、6地区で開催しました。

延べ114人の参加のもと、9月定例会の報告の後、初めての試みとして、テーマを一つに絞って参加者全員から意見を聞きました。そして、従来どおり諸課題について意見交換を行いました。

ここでは、主な内容をお伝えします。

なお、参加者の意見に基づいて現地調査を行った結果等は、各地域振興協議会へ送付しました。



# 生活



宮古市と大川地区にまたがって、70基の風車が設置される計画です

**問** 防犯灯の設置を希望しているが、取り合ってもらえない。(下岩泉会場)

**答** 総務課で申請を受け付けている。設置は無料だが、維持費は自治会負担になる。個人ではなく自治会で申請してはどうか。

**問** 長野県では風力発電事業で環境破壊の恐れから撤退した例がある。釜津田地区内に設置予定とのことだが低周波や落下物等による被害が心配だ。安全性は確保されているのか。(大広会場)

**答** 設置する会社は、環境調査を行っているので、国の認可が下りると思う。風車の設置場所から2キロメートル以上離れていれば、健康被害はないと聞いている。再度説明会を要望していく。

**問** 水源地までの除雪を望む。また、オペレーターの技術の差で、民家の前に雪壁ができる時がある。改善できないか。(年々会場)

**答** 水源地までの除雪については、現地調査を行う。オペレーターが同じ認識で除雪を行うよう、除雪手引書の作成を町へ要望している。

**問** 防災メールなど災害時の情報伝達が遅い。一刻を争うのでもっと早くできないか。(三田貝会場)

**答** 時間短縮は重要である。デジタル化が進んでいるので調査する。

**問** 近くにある砂利工場の振動や騒音で悩んでいる。何とかしてほしい。(中里会場)

**答** 調査の上、対応について検討する。

# 学校



閉校となる大牛内分校の活用策が提案されました

**問** 来年4月に統合される小本小学校大牛内分校の建物を宿泊施設として活用するべきと思うがどうか。(中里会場)

**答** 国等の補助事業で整備した施設は、用途により、一定の期間が経たなければ、変更できないものがあると聞いている。地域の人と町が協議を進めていく必要がある。

る。宿泊施設を含めた複合施設として利用方法を考えるべきである。

**問** 自宅からの距離の関係でスクールバスに乗れない。運行途中は乗せても良いのではないか。(三田貝会場)

**答** 距離を満たさない乗車は、国の補助金の関係で難しい。

# 遊休農地

**問** 遊休農地が目立つが活用を考えるべきだ。(下岩泉会場)

**答** 農地中間管理機構が農地の集積を行っている。農業委員会を通じて活用する手段はある。

# 町職員の採用

**問** 町職員が定年後に再度任用される制度に伴い、新採用の枠が減っているのではないか。

また、職務はサポート役が良いのではないか。(大広会場)

**答** 新採用への影響は無いと思う。再任用制度は行政通の人には頑張ってもらうことで意義がある。

# 参加者全員が 議員定数に意見

**平**

成27年3月に制定した岩泉町議会基本条例第21

条では、「議員定数の改正にあたっては、町民の意見を聴取するなどしてあるべき定数を判断しなければならぬ」と定めています。そこで、議員と語る会では、バズセッション（6人ぐらゐのグループに分かれて、くつろいだ雰囲気です話合いをする方法）を取り入れて、岩泉町議会議員の議員定数（以下、議員定数）をテーマに参加者全員の意見を聞きました。①現在15人



数人のグループに分かれて、参加者全員の意見を聞きました

## 多くの地区から 時間延長の要望

**議**

員と語る会では、参加者にアンケートをお願いしています。

60〜70代が多いのはいつもどおりですが、今回は、30代の参加も増えています。

ここでは、アンケートの回答の一部を紹介します。

**意見**

- ・時間を延長してほしい。
- ・会場持ち回りを今後にも。地元なので、参加しやすかった。
- ・意見を言えたのは良かったが、実行してもらえないのが問題だ。
- ・討議資料を前もってほしい。
- ・回数を増やして。バズセッションは良かった。
- ・良かったけど、意味のわからない所もあった。



各会場で多くの発言。時間の見直しが必要？

- ・議会報には、議会報告だけでなく町民の要望も載せてほしい。
- ・過疎や高校など、一つの問題で協議することも考えては。

性別	男性	女性
	77	17

年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
	0	0	7	6	19	39	26	7

**第**

## 町民との対話を 今後も重視

6回を数える議員と語る会を終え、また新たな

発見をすることができました。

それは、町民生活の中に次から次へと課題が降ってきているという現実です。その結果、もっと議論の時間がほしいという声が多くありました。

今後とも、議員の資質向上に努めながら、町民との対話を重視していく必要があると感じました。

議長 加藤久民



## 農林業の先進地に学ぶ

産業常任委員会（野館泰喜委員長）では、10月6日に北上市と岩手町の農業振興について視察しました。

10月21日、22日には、福島県と宮城県で4件の農林業施策の先進事例を学びました。

### 桑茶の商品開発

岩手県北上市

脳卒中予防に効果があるといわれる桑茶の製造・販売を行っている(株)更木ふるさと興社を見学しました。



見学の工場製造桑茶の桑茶の製造工場を見学する産業常任委員

・・・所感・・・  
本町では、桑を栽培していたことがあるので、遊休地を利用した桑栽培を考えていくべきであると感じました。  
〔報告 合砂丈司〕

### 1億円農家

岩手県岩手町

岩手町の農業粗生産額は約100億円で、キャベツ農家のうち5軒が、1億円以上を販売していました。

・・・所感・・・  
岩手町は、全国有数

の薬草の産地で、製薬会社との契約栽培により1億円の安定した収入を確保していました。本町における薬草栽培の可能性について、調査研究をするべきと感じました。  
〔報告 佐々木久任〕

### 木造庁舎

福島県国見町

東日本大震災で庁舎が被災したことにより、木質ハイブリッド鋼材内蔵型集成材を使用して建て替えた庁舎を見学しました。

・・・所感・・・  
本町の庁舎を建て替える場合も木造が良いと思いました。  
〔報告 畠山直人〕

### 特産品

福島県玉川村

道の駅たまかわは、次々と新商品を開発し、物産展等の外販で消費者ニーズを捉えながら、特産品が選び抜かれていました。

農家では、ペレットポイラーを補助暖房として活用し、通年でトマトを栽培しています。

・・・所感・・・  
道の駅は、駅長の個人的能力の影響が大きいと感じました。人材

育成がいかにかに重要であるかを再認識したところです。

ペレットポイラーは、野菜栽培への導入を検討するべきと感じました。  
〔報告 三田地和彦〕



特産品開発について説明を受ける産業常任委員（道の駅たまかわ）

### 6次産業

宮城県登米市

(有)伊豆沼農産は、養豚、水稲、果樹の生産、加工品の製造販売や食堂、直売所を営業している農業生産法人です。

現在は、小学生の食農体験プログラムが好

評とのことでした。  
・・・所感・・・  
数年前から豚肉を輸出し、TPPの影響を

最小限に抑える方策をとっていることに感銘を受けました。  
〔報告 三田地久志〕

## 医療体制等について

## 意見交換

総務常任委員会（坂本昇委員長）では、病気の予防活動や医療体制等について、10月8日に関係機関と意見交換を行いました。

保健福祉課では、健診の受診率向上のため、午後6時30分まで受け付けを行うナイト健診や適正塩分食付き健診等、町民が受診しやすい仕組みを構築していました。

済生会岩泉病院では、柴野良博病院長から経営状況や医療体制について説明を受けました。

・・・所感・・・  
健康管理の根幹は、高血圧対策と適度な塩分摂取であることを再認識しました。

済生会岩泉病院は、全国からの医師の派遣

により医師の確保に努め、本町の医療を担っていると感じました。  
〔報告 菊地弘巳〕



柴野病院長から説明を受ける総務常任委員（済生会岩泉病院）



# ひとまひとインタビュー

12月定例会の傍聴者数はのべ10人でした。傍聴された方の中から、小川の内村一さんに傍聴した感想などをインタビューしました。



うちむら はじめ  
内村 一さん  
(小川：63歳)

## 夢を描いて 町政の議論を

―傍聴のきっかけは。

内村 「岩泉町民の生活は岩泉町議会からはじまる」という個人的スローガン達成のため。

―傍聴された感想はどうでしたか。

内村 各施策に対する質

問は欠かすことができないが、できれば、各議員の岩泉町の将来展望を聞きたい。物事は、夢物語からはじまる。夢を描いてこそ、今なすべきことが見えてくるのでは…。

―議員に対する要望がありますか。

内村 町民の発言の場が町議会と思っている。

―一問一答方式は理解できるが、質疑の流れで発生する関連問題はどこで処理するのか、各議員に考えてもらいたい。

―議会や町政に対する要望はありますか。

内村 傍聴席に手すりやヘッドフォンが設置され、障がい者にやさしい会場になった。

ほかの施設も障がい者のことを考えた利用しやすい施設になることを期待する。

### 表紙にのせて

小本・大牛内の阿部将志さん一家は、本町有数の畜産農家です。住史さんが経営全般を、同居の長男秀人さんが黒豚を、近くに住む次男将志さんが黒毛和牛を担当しています。25年前に本町で初めて黒豚5頭を導入。販売先に苦勞しながら契約出荷体制を築いて、1500頭まで拡大しているとのことでした。また、黒毛和牛70頭の繁殖にも取り組んでいます。



黒毛和牛を担当している次男の阿部将志さん一家

### ぴーちゃんねるで議会を見よう

一般質問の録画映像をぴーちゃんねるで配信しています。ぜひご覧ください。



### お詫の訂正

平成27年11月15日発行第173号18ページの「ひとまひとインタビュー」の「上山明美さん」は、「上山明美さん」の誤りでした。心よりお詫び申し上げます。

### 編集後記

11月の補欠選挙により、しばらくぶりに15人がそろいました。新人議員を加えての12月定例会は、活発な議論が展開され、意義深いものとなりました。

議会だよりは、広報広聴常任委員会が編集を担当しています。「議員と語る会」をはじめとする広聴活動についても、その幅を広げていかなければなりません。「開かれた議会」へ、町民の皆さまのご意見をお待ちしています。

(広報広聴常任委員 野館泰喜)

議会を傍聴しませんか  
次の定例会は、  
**2月16日(火)に**  
開会予定です。  
詳しくは、議会事務局へ  
おたずねください。

### 広報広聴常任委員会

委員長	合 砂 丈 司
副委員長	三 田 地 久 志
委員	八 重 樫 龍 介
	林 崎 竟 次 郎
	野 館 泰 喜
	坂 本 昇



古紙のリサイクルに取り組むオフィス町内会と、森林の再生に取り組む岩手県岩泉町との連携により実現した「森の町内会一問伐に寄与した紙」を使用しています。

